

親が食事中スマホ 子は不満



イラスト・大井美咲

中学生が家で食事中、親がスマートフォンを使うと、食事を「楽しい」と感じる率が下がるとの研究結果を、熊本県立大の坂本達昭講師(栄養学)らがまとめた。日本健康教育学会誌に論文を発表した。特に男子は母親、女子は父親に対し、その傾向が強かった。家族らと食事を「共食」とスマホを利用の関連についての研究は初めてという。

2016年、福井県内の中学2年生に質問紙を配り、759人の回答を分析した。家の食事が「とても楽しい」「楽しい」と答えたのは84%。ただ、割合は、父親が母親に比べて約1割少ない。スマホやタブレット端末などを利用している場合、その割合は、

熊本県立大講師ら調査「家族で向き合って」

「楽しい」の割合が増えた。母と息子、父と娘の関係をみると、親がスマホを使っていると親が「楽しい」の割合が2.3倍高かった。一方、中学生本人のスマホ利用と食事の楽しさには関連が認められなかった。また、夕食を家族と一緒に取る頻度でも、女子は週4日以上の場合と3日以下の場合で、「楽しい」の割合に2倍以上の差があった。

坂本講師は「保護者が食事中にスマホを使うと、子どもは自分に無関心だと映るのではないかと、異性の親にも話を聞いてほしいという思いがあるかもしれない。家族で向き合うことが大切だ」と話している。【谷本仁美】

朝から数独 SUDOKU 第375回・初級

	9		4		2			
	7		2		6			
1		9		8				9
	3	8						7
2		6			7			
8				5	1			
	4		6					1
3		9			2			
9		5		7				

答えは左下 バスル制作/ニコリ

①まだ数字の入っていないマスに1から9までの数字のどれかを一つずつ入れましょう。0は使いません②タテ9列、ヨコ9列、太線で囲まれた3×3のブロック(九つ)のどれにも、1から9までの数字が一つずつ入るようにします。

「数独ノート」好評発売中
お求めは毎日新聞販売店へ

お天気

	17(火)	18(水)	19(木)	天気
東京	☁	☁	☁	のち
札幌	☁	☁	☁	一時時々
仙台	☁	☁	☁	5ミ
秋田	☁	☁	☁	5ミ以上
前橋	☁	☁	☁	5ミ未満
さいたま	☁	☁	☁	最高最低
千葉	☁	☁	☁	予想気温(℃)
横浜	☁	☁	☁	降水確率(%)
静岡	☁	☁	☁	
新潟	☁	☁	☁	
長野	☁	☁	☁	
名古屋	☁	☁	☁	
大阪	☁	☁	☁	
福岡	☁	☁	☁	
那覇	☁	☁	☁	



気温と湿度 15日
最高(今年) 最低(今年) 湿度(%)

都市	最高(今年)	最低(今年)	湿度(%)
東京	22.1(18.9)	14.5(9.5)	63
札幌	6.6(11.4)	2.3(3.1)	81
仙台	9.8(12.4)	5.7(9.8)	81

過疎の地再生へ一歩

島根県・旧匹見町



町が1カ月前に孤立した1963(昭和38)年の「三八豪雪」。翌年からは2年連続で集中豪雨に見舞われ、一家で集落を離れる「孝家離村」が相次いだ。

60年の国勢調査で7186人いた人口は、5年で5255人に激減した。63年から4期16年にわたって町長を務めた大谷武彦さんは、死去した大谷武彦さんは、国会やメディアに当時は浸透していなかった「過疎」という言葉を使い窮状を訴えた。行動は奏功し、元利償還の7割を地方交付税で賄う過疎債の発行を認める「過疎法」が70年に成立。大谷さんは「過疎町長」と呼ばれた。

「道路が良くなれば車が增え、離村も減っていく」という「道路福祉論」を唱え、法施行後は過疎債を財源にした道路整備に力を入れたものの、人口減に歯止めは掛からなかった。

市内に20ある小学校区では住民による地域運営組織の設立が進められており、15・17年度に9地区で活動を始めた。

導入進む地域運営組織

「何もしなければ、現状維持もかなわない。旧匹見町地区の地域運営組織の一つ「匹見下」の里づくり協議会」は、3年間にわたる約60回の会合を経て16年4月につくられ再生の「一歩を踏み出した」。

「過疎法で整備された道を通じて住民が流出した」と振り返る山崎一美会長(73)は、移住者の受け皿になる空き家の実態調査に乗り出した。

「東の静岡、西の匹見」と呼ばれた特産のワサビは、昭和初期の最盛期に年間300トが生産されていた。大阪や京都で高値で取引され「背負いかご一杯10万円」の時代もあった。現在は50ト程度にとどまる。上内谷地区の住民は村上さん夫妻だけが、体験学習に加え、転出した元住民らが農作業や集落の草刈りに戻るため、週末の村上家にはぎやかになる。

「巴さんは言う。『体力的に10年先のことでは考えられないが、5年先を見て頑張ろう』と、思っている」



昭和40年代まで使われ、今は放置されている小中学校の寄宿舎の前に立つ山崎一美さん。「市に金がないから、自分たちで頑張れ」ということだ。島根県益田市匹見町澄川で3月

【横井信洋、写真も】